

高校生・大学生のための都市まちづくり研究入門序

はじめに～主旨説明～

本シリーズは、高校生・大学生の皆さんに「高校生・大学生のための都市まちづくりをどのようにリサーチするのか？」を説明するために作られました。この序では全体の目次と内容を紹介しますが、それぞれの Chapter は独立した内容になっており、必要な Chapter だけ目を通していただいてもかまいません。

主な内容は、関西学院大学総合政策学部の先生方によって編集された『都市、環境、エコロジー』（関西学院大学総合政策学部編、2017）をベースとしています。本書は関西都市文化圏の誕生やその発展、そして都市生態系が広がりとともに次第に無視できなくなってきた様々な課題が取り上げられています。なかでも、公共空間等の性格への考察やそのマネジメントへの提言や、少子高齢化が進行するなかで、衰退しかけている都市の再興をめざして、地域資源の再評価・活用を図ったり、むしろ積極的に土地利用のあり方を変えていくための諸施策を扱っているものです。

リサーチ・スキルについて詳細な説明が必要と思われる箇所では、適宜『高等学校課題研究ハンドブック』を引用しています。そちらのシリーズもご参考にしてください。

目次と内容の紹介

Chapter 1 a：都市デザインを考える前編（pp.1-4）

Chapter 1 b：都市デザインを考える後編（pp.5-8）

- Chapter1 では、総合政策学部が編纂した『都市、環境、エコロジー』から、角野先生の「都市デザインとエリアマネジメント」をベースに、都市デザインについての学びから始めます。主な内容は、**都市デザイン**の枠組、**都市景観**の意識、まちと人々の**動き**、**広場**を活かすためのハードとソフトなどです。

Chapter 2 a：阪神地域の都市のなりたち～地形、水系、外国人居留地～前編（pp.9-12）

Chapter 2 b：阪神地域の都市のなりたち～地形、水系、外国人居留地～後編（pp.13-16）

- この Chapter では、皆さんに“まちづくり”を実感し、フィールドリサーチの基本を身に付けていただくため、客野先生が阪神地域の都市化と生活環境の変化をとりあげ、近代都市への変貌がこの地の景観にどのような影響をもたらしたかを説明します。とくに焦点をあてたものは、阪神間の**近代化以前の地形と歴史**、水が形成する**地域社会と文化**、阪神地域の**都市化と阪神間モダニズム**などです。

Chapter 3 a：阪神地域の都市のなりたち2：都市化の進展前編（pp.17-20）

Chapter 3 b：阪神地域の都市のなりたち2：都市化の進展後編（pp.21-24）

- Chapter 2 に引き続いて、客野先生が**外国文化**の影響（とくに神戸外国人居留地の存在）、神戸を中心とした**学問の場**（学校教育）と**山岳スポーツ**の発展、都市化と**近郊の誕生**、**関西学院の上ヶ原キャンパス移転**などをとりあげます。

Chapter 4 a : 都市再生と都市デザインを考える前編 (pp.25-28)

Chapter 4 b : 都市再生と都市デザインを考える後編 (pp.29-32)

- Chapter 4では、**都市再生**に焦点をあてて、角野先生から、成熟した都市の課題として**都市発展段階説**、都市の**再生事業**、都市間の**競争**、**エリア・リノベーション**と**エリア・マネジメント**などの説明をうかがいます。

Chapter 5 a : 地域の良さを見直す～奈良を対象に前編～ (pp.33-36)

Chapter 5 b : 地域の良さを見直す～奈良を対象に後編～ (pp.37-40)

- Chapter 5は、清水陽子先生による「地域資源の再評価と市街地における新たな土地利用の可能性」をもとに、「地域の良さを見直す」ためのリサーチワークを紹介します。主な内容は、地域資源とは何か、生活観光という視点～奈良女子大での取り組み～、情報発信、取り組みから得られたもの等です。

それでは、Chapter 1 から始めましょう。

引用文献

関西学院大学総合政策学部編『都市、環境、エコロジー』関西学院大学出版会、2017。

2018年3月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部



都市研究には、古い写真が役立ちます。上は1929年に西宮市に移転する前の関西学院原田の森キャンパスを、西側上空から俯瞰した写真です。現在の王子公園にあたり、中央やや下よりに写っている旧ブランチ・メモリアル・チャペルが神戸文学館として現存しています。その左上に中等部グラウンドがありますが、ここはそのまま動物園内の子供向け遊園地の敷地に利用されています。右下には当時の阪急神戸本線が走っており、終点の“神戸駅”（当時）でした。その後、三宮延伸の際に支線（旧上筒井線）になります。しかし、結局廃線となって、痕跡もほとんど残っていません。